

部活動については、学校統合までに部活動の再編成を行い、2校がほぼ同種目となるよう検討を進め互いに競い合い高め合う環境をつくる。

隠岐の島町立小中学校の学校数及び学校配置について。

当委員会では、大まか次の事項で協議され結論としたものと認識しています。

1・どのような子供に育て欲しいか？

結論として

- ・自ら学び、学力を身につける子
- ・未来をたくましく生きる子
- ・自分も友達も大切にする子
- ・夢に向かって努力する子
- ・自分の考えを自分の言葉で表現する子

2・1の結論をもって、その環境に適しているのは何人が必要と考えるか？

- ・小学校 1学級あたりの人数 20人以上
- ・中学校 1学級あたりの人数 25人以上

3・学校配置について

- ・中学校 2校「西郷中学校と新設校（都万・五箇・南）」
- ・小学校 2校「西郷小学校と新設校（都万・五箇・北・中条・有木・磯）」

4・時期について

- ・中学校は5年後を目指す
- ・小学校は7年後を目指す

5・設置場所について

- ・中学校は、西郷中学校と西郷南中学校（校名は？）
 - ・小学校は、西郷小学校と島の中央部（原田地区辺り）に新設校
- ※但し、避難所等の役割、地権者等の部分は調査を必要とする。

これを見返してみても、私見を述べてみたいと思います。

当委員会の考え方は、「児童の望ましい教育環境」池田委員に再認識させてもらった「子供ファースト」の考え方で議論され、なされていった結論であると考えます。この1方向での議論を重ねて出た結論に異議を唱えるものではありませんが、さて、この結論「隠岐の島町に中学校2校・小学校2校」となった際の隠岐の島町の将来像を想像するに辺り、強い不安を感じてしまう事から、結論に対して疑問を持ってしまいます。

不安な点について。

1・隠岐の島町の将来ビジョン

まず、現状（中学校4校・小学校7校 養護学校1校）から、結論（中学校2校・小学校2校・養護学校1校）とした場合、隠岐の島町から一体何人分の職業が失われるか？

<参考資料>

ざっくりとなりますが、新設の中学校・小学校とも、現状の西郷小学校・中学校とほぼ同規模と想定し、現状の西郷中学校・小学校と同数の職員数と試算すると、

資料添付・・・現在の配置職員数（教育委員会提出）

中学校 現状 63名 が、2校にした場合 42名 となり、マイナス 20名

小学校 現状 106名 が、2校にした場合 56名 となり、マイナス 50名

実質 70名近い島内での教職員関係の雇用の場（働き口）を失うこととなります。

また、校舎の補修だったり、備品等の購入だったり、制服購入だったり、スクールバス運行だったり、といった島内の事業者へ及ぼす事業の増減はどの程度になるものか？

というのも、島内で事業をされている方にとって事業継続に関わる案件にもなります。

事業縮小ともなれば、経営者としては最悪人員整理も視野にいれなければならず、これらについても雇用の場（働き口）を失う可能性を秘めていると推察します。

これが、どういう意味をなすのか？

島内の経済活動の縮小。

隠岐の島町に限った事ではありませんが、人口減少がもたらす人口減少の負の連鎖。

Π（パイ）を縮小させれば、奇跡的な何かが起こらない限り、更に縮小の一途を辿るのは言わずもがな現在が表していると思っています。

「限界集落」、一度は耳にしたことがあるかと思います。

多々あるこの限界集落の論説の中で、「病院（医療）が無くなった。学校（教育）が無くなった。主産業（職場）が無くなった。これらが大きな要因である」と説いているものが多くあります。隠岐の島町が、この通りになるとは断言できませんが、その可能性は大いに秘めているものと考えます。

→将来の隠岐の島町の教育環境（児童数）が、現在の教育環境（児童数）更に縮小化されることが懸念される。であるならば、これ以下には出来ない1校案に対する議論が薄い。

2・児童たちの導線における安全・及び「故郷愛」の確保

当委員会でも、吉田副委員長からご指摘のあった「放課後支援」にまつわる案件になります。児童における学校で過ごす時間は多いですが、放課後、更には、夏休み・冬休み・春休み といった長期休みが存在する事もあり、やはり自宅周辺で過ごす時間が一番多いと考えます。また、家庭環境も変化しており、専業主婦が主流であった時代とは異なり、昨今は夫婦共働きが多くなっている時代だと考えます。

このような背景から、学校（教員の見守る目）が終わってからから家（親の見守る目）へシフトする際に、これを繋ぐ場所（第三者の見守る目）というのが必要かと考えます。

現状を見た際、「放課後児童クラブ」等の施策はあるものの、子育て世代にとって満足いく体制ではない気がします。

この件は、今後の学校配置を変える変えないどちらにせよ、拡充は必須だと考えます。

また、地域（集落）に学校が無くなると（今回の結論から言えば、布施・中村・有木・中条・五箇・都万）、地域の方達が児童に対して関心を持たなくなってくると思われます。

おそらくスクールバスでの通学となり、児童が地域の目に触れる機会は間違いなく激減します。これは、上で申し上げた「第三者の見守る目」が薄弱になると思われます。

私は、「歩いて通える学校」の意味が、ここにあると思っています。

勿論、現状では認知されていない部分での認知の機会が増えるのはあります。

「例えば、都万・五箇・布施・中村・磯・有木 の児童が、新設予定地である原田地域の目に触れる機会」という考え方はあると思われるが、果たして、これが、児童たちにとって今より有益な事か？と考えると私は、いささか疑問に感じてしまいます。

同じくして、「故郷愛」の持てる人物形成を考えた場合、逆行する事のような気がします。当委員会では、この「故郷愛」的な議論はされておりませんが、現の隠岐の島町教育会議なる教育の中枢部の議題には「おきびと」というテーマで議論されていますので、回避な部分でもあると考えます。

「おきびと」「故郷愛」について私論

これは、私の生い立ちを正当化するような文面になりますが、是非読んで頂きたい。

私の生まれは、隣島の西ノ島です。本来は、私の故郷は西ノ島浦郷になるはずですが、父の仕事の関係と母の実家が中村にあったことから、物心ついた時には中村に住んでいました。保育園・小学校・中学校を中村で、高校は中村から通い隠岐高校へ、島に無かった大学へ行くのに大阪工業大学へ島から出て、在学中に島の団体職員採用により中途退学し帰島しました。今じゃ、団体職員を辞め、子供のころから大好きだった海を満喫できる仕事を開業し現在にいたっています。

島に帰って生活したい。これがおそらく私の最大の意思だったように感じます。

島で生活したい。おぼろげながらに考えるに、私が、教育会議で議論されている「おきびと」だったように感じてしまいます。

故郷の西ノ島ではなく、西郷でもなく、中村になったのは、間違いなく、幼少期を中村で過ごしたからに他なりません。

幼少期に見守ってくれていた、近所のおっつあんやおばさん、達は、島に帰る際には、自分の安心感になりました。(父とかが倒れても、寄り添ってくれるつきあいがある)。

いわば、私自身が幼少期を過ごしていた事もあり、ある程度地域に理解してもらっていたので全く0から人間関係を構築する必要がなかった。

大好きだった土地環境(山あり海あり川あり)を使った遊び(使い方)での思い出と、現在、自分の息子へそれを教えられる満足感。

これらの事は、地域に育てられていたからこそ「故郷」と思える感性であると思います。

なので、幼少期を過ごす過程において、「地域」との関りを薄弱にしていくような環境にすることは、「故郷愛」は育たない。と私は断言したい。

また、時代錯誤な考えかも知れませんが、逆に今の少子高齢化、限界集落という嫌な言葉が頭をよぎる今だからこそかもしれません、「息子には、中村に帰ってきて欲しい」と思っています。子供がしたい事が島外にしかなければ仕方ありませんし、島が嫌いならば無理強いほしませんが、親としては「島に帰ってきて欲しい」と切に願っています。

逆にいえば、子供に島に帰ってきて欲しくない。親っているのかな?と思っています。

疑問点

当委員会の考え方で、ある一定程度の結論は得ました。

「小学校・中学校とも7年間のうちに2校」

これは、あくまでも、当委員会の考え方に沿って導きだされた結論です。

私は、今、これをする事による隠岐の島町の未来像を考えたからこそ出てきた不安点が見えたからでてくる疑問点になります。

1・不安点(リスク)を抱えても、やるべき事なのか？

私的には、現状維持という委員会とは全く違う答えになります。

2・「学校」特に義務教育課程において、「規模(児童数)」が大事なのか？

当委員会の進め方であった

「どのような子供に育て欲しいか？」

- ・自ら学び、学力を身につける子
- ・未来をたくましく生きる子
- ・自分も友達も大切にする子
- ・夢に向かって努力する子
- ・自分の考えを自分の言葉で表現する子

「その環境に適しているのは何人が必要と考えるか？」

- ・小学校 1学級あたりの人数 20人以上
- ・中学校 1学級あたりの人数 25人以上

この事は、当委員会において結論を導く基礎部分であるのですが、あくまでも「〇〇だったらいいよね」という理想論でしかなかったように感じています。逆に言えば、そうでなくてはならない理由づけが凄く弱いと感じます。

これらが、例えば、10人では不可能なのか？5人では不可能なのか？1人では不可能なのか？逆の発想として10人でも5人でも1人でも育つ環境整備(手法)ができないのか？といった検討が不足していたように感じます。

一昔前ならいざしらず、ネット環境とかの普及もあり、「少人数だと多くの意見に触れない」というような事はないのではないのかな？(例えば、当委員会でも何回かあったネットを通じた会議ができたように、少人数学校同士によるネット授業のような形とか)

3・現状の問題点の捉え方

そもそも論にはなりますが、現状の教育における環境の本質的な問題部分が「学級人数」「学校数」「学校配置」なのでしょうか？

子供ファーストの考え方をしても、児童数減少により、コミュニケーション能力、競争力、発信力 等を代表する能力が子供たちに備わりにくいのでは？ というのが問題点であるような気がします。

では、児童数が少ない学校の児童と、児童数が多い学校の児童と の格差が顕著だとする検証は必要です。それがないと問題点が確立されないからに他ならないからです。

問題が確立されていないのに、解決策を持ち出すというのは、何か腑に落ちなくないですか？ だって、問題がわからないのに答えなんて出ませんよね？

また、解決策として、直ちに「学級数」「学校数」それに対する「学校配置」としてしまう今までの町が行ってきたシナリオ（過去2回規模適正化検討委員会）は同じで、委員会の面子が変わっただけ。歴史を振り返れば、このシナリオの結末は現実として示されており（止まらない児童数減少による統廃合議論が10年経たぬうちに噴出する）、正しかったとは思えません。

本質的な問題は、「学級人数」「学校数」「学校配置」ではなく、吉崎委員も指摘された「一極集中による人口減少」だと思われまます。これを取り組まずして、それに付随してくる子供の教育環境を先に取り組むのは、本末転倒のような気がしてなりません。

なぜならば、様々な視点から「学校」というものと向き合った時に、学級人数・学校数・学校配置が最優先事項ではないと考えまます。

まとめ

一昨年、北小学校と中条小学校の統廃合の話がありました。

当事者でなかった皆さまが、どう捉えられているか？

「中村地域の猛反対にあい隠岐の島町が計画を白紙に戻した」という捉え方が一般的ではないでしょうか？

中村の自治会では、「北小・中条小」という部分的なことではなく、隠岐の島町として隠岐の島全体でどう考えていくのか？その考えの基、どうあるべきなのか？を協議すべきとし、隠岐の島町が統合という方針を持って協議に臨んだことを不服とし、この統合の方針を撤回させる要望を議会へ出し可決されました。

ただ反対しただけではない。方針を撤回した上で協議をしましょう。という姿勢でしたが、隠岐の島町は、その後、協議の場を持たず、計画自体を白紙というより、計画通り（統廃合しない学校づくり）に戻し、次期計画を策定する。としました。

これが、正しい受け止めです。

そして、おそらく次期計画を作成するために召集されたのがこの「あり方委員会」ではないかと思っています。

だとするならば、委員会開催初めに「絵にかいた餅になりませんか？」と発言し年配の委員に窘められましたが、正にそのとおりになっていませんか？

1・組織編制・開催した委員会の内容

地域代表という肩書は外してもらいましたが、当初 8 地域とした中で 5 地域が不在のまま議論が進められた事実。また、委員も公募はしましたが教育長選任であり選挙を経ていません。これでどうやって民意を汲んでいるといえるのか疑問です。

また、経済界からの人材も選出されていませんし、コンサルを入れたりした動態調査もありません。

同じくして、事実上、この案件を決済する町長・教育長 ただの 1 回も委員会には出席していません。勿論、当委員会の議論をやりやすくする為のあての事かとは理解しておるものの、当委員会がどれだけの熱量で議論し、どの程度まで踏み込んだ上の決議だったか？等、会議録だけでは語れないものもあったかと思われまます。

2・私見で申し上げた内容

隠岐の島町の将来像に対する不安点と、その不安点からくる疑問点をあげさせてもらいました。当委員会の考え方のみで出した結論（私からすれば、理想論）に異議はありませんが、それに違うソース「違った視点での観方や意見／今回の具体例で経済縮小への影響）が入っ

ても、委員のみなさんは、小中学校とも2校という今の結論に変わりありませんか？
少なくとも、私は、現状維持を保つのがベストだと考えてしまい、当委員会の結論とは反する結論になってしまいます。同じくして、このようなソースは多々ある中で、それを踏まえて結論を出すには、いささか当委員会の面子構成や人選の制度を考えると、不適切だと考えます。当委員会で地域振興策なる話題の際、「この委員会での範疇を超えている」と年配委員からご指摘を受けましたこともありましたが、同様だと考えます。

上、1・2・3を踏まえ、当委員会での結論は、あくまでも1方向「子供たちにとってどう育って欲しいか」「児童にとって好ましい(子供ファースト)」から導き出された結論であり、隠岐の島町へ委ねる意見書のようなものであると考えます。

「当委員会の結論は、あくまでも、次期計画策定においての一つの意見として取り扱い、総合的な計画においては教育委員会に託す形でしかならない」とするのが適切だと考える。

..... 以上

報告書（案）への意見

まず、この報告書は、どこからどこへ提出される前提なのか？委員全員で確認したい。
併せて、原案は誰が作成したのか伺いたい。

私は、あくまでも、あり方委員会から隠岐の島町教育委員会へ宛てたものであると思っています。

そして、

報告書にするのか？意見書にするのか？提言書にするのか？提案書にするのか？

嘆願書にするのか？

ここも、私が当委員会を振り返り想った事をまとめた文章を読んだ上で、委員の皆様で話をして欲しいです。

報告書が、当委員会からすると適切な気もしますが、当委員会を振り返り、委員全員が異議なしとする意味合い的には「意見書」「提言書」の方が私には、しっくりきます。

あくまでも、子供にどう育て欲しいか？それを叶える教育環境は？という考え方を最優先して議論したものです。地域振興等も議題には上がりましたが、これらを含めた総合的な結論の出し方ではなかったかと記憶しています。

※報告書とするならば、当委員会の結論から導きだされる申し送り事項を記載するべきと考えます。

「地域（隠岐の島町全体）経済の縮小」

「児童に故郷愛が備わるか？」

「放課後・長期休暇時の児童支援の環境整備」

「小中学校が当該地域から無くなる事への、地域の理解は得られるのか？」

「子育て世代の若者の流出」

「過疎化に拍車がかかるのでは？」

等

その上で

はじめに、全体を読んでの感想です。

原案の報告書の構成がからくるものなのかわかりませんが、同じような事が繰り返し記載されているような印象を受けました。

はじめに の部分で、後に出てくる検討内容の記載があります（1 ページ・2 ページ）

はじめに なのに、しめくくりが、 おわりに とかにもなっており、全体的にみて、ぐちゃぐちゃしてる印象を受けました。

そこで、報告書自体の構成を少しいじってみました。（資料）

現在記載してある内容はともかく、構成自体は、こちらの方が、私的には、すっきりまとまったのですが、いかがでしょうか？

当委員会の立ち位置、また、今までの委員会の進捗からも、流れに沿った物語調の報告書になり、誰が見ても理解しやすいと思いますが如何でしょうか？

また、この構成にすることにより、「はじめに」「おわりに」にあたる部分での文面が簡素化されると思われませんが如何でしょうか？

またこれは、提案ですが

「はじめに」では

現段階での、問題点を主体に文章構成

「おわりに」では。

これをするならば生じるだろう当委員会では決議できない「申し送り事項の指摘」を記載し、次期計画の早期策定及び早期取組を隠岐の町の児童生徒達の為にも期待する。として締めくくってはどうか？

※申し送りをする記載があり完結しない報告書になるので、教育委員会が望む報告書ではないかもしれないが、この報告書を以て次期計画策定にあたっての基本方針とかいわれても委員が困惑するのでは？

当委員会は「諮問機関」ではないとされていますので、この報告書を以て、次期計画の基本方針にするかしないかは、計画策定をする教育委員会なはずです。

<原案の構成・文面 とする方向で決着、もしくは、文面を修正とする方向で決着したならば、修正・もしくは配慮して欲しい箇所>

1・1ページ

複式学級のある小学校が増加傾向

複式学級が問題点としてあがりましたか？

複式学級のイメージを悪くさせるように感じられ、不適切だと思います。

※複式学級になるのは、学校の制度設計の問題だと思われ、当委員会の「児童の為に」という考え方からしても不適切だと考える。

2・2ページ

1学級あたり20人以上の児童数が必要・・・

好ましい・望ましい 程度の受け止めでしたが、誤認識でしょうか？

必要とするならば、必要性を説く文言があったほうが良いと思います。

※委員会でも議論がありました、20人いれば、4・5人のグループが4・5組でき、小さな意見交換の後、大きな意見交換ができる。

けど、必要という記載は似合わないと思います。

3・2ページ

確かに少人数学校の良さ・・・から始まる一文

統廃合ありき！ と勘繰らせる文面になっていないか？

少子高齢化の状況を考慮して統廃合が必要不可欠とした覚えは一切ありません。

あくまでも、理想とする児童が育つ教育環境から導きだされた「小学校2校」だと理解していますが？

4・2ページ

大人数の学級によって、教育上の様々な選択肢

教育上の様々な選択肢とは何？

読んでみると、流されそうになりますが、具体的にどういうことなのでしょう？

また、教育上とはしているが、これって教員の授業形態の選択肢 とも捉えられる。

5・3 ページ

当委員会の中で、小学校は・・・・・・・・

当該地域の方々にとってはではなく、これは隠岐の島町全体になると思われま

す。代案は思いつきませんが、もっとうまく表現できませんかね？

記載の必要性があるかも踏まえて検討いただきたい。

6・3 ページ

終わりに、当委員会では、少子化の進行・・・・・・・・から始まる一文、

町民の皆様をはじめ、という文言は、この報告書では不適切だと考える。

(あり方委員会から隠岐の島町教育委員会へ で間違いなければ)

無論、町民にも関心を持ってもらわなければならない。私もそう思います。

ですが、あくまでも「報告書？」の上で、町民の皆様、関係機関 とかは必要なく、

この文言を入れることによって、当委員会が隠岐の島町全域に発言しているようになりま

せんか？

<提案>」

町民の皆様はじめ、町当局、関連機関におかれましては の文言を削除し

終わりに、当委員会では、少子化の進行する状況の中、これからの本町の児童生徒にとってよりよい小中学校のあり方を求め、学校の適正な規模と配置を中心に将来の方向性についてまとめました。この機会に本町児童生徒のための学校教育環境はどうあれば良いのかについて、これまで以上に関心を持っていただきますとともに、町当局におかれましては、議論を深めて頂きたいと幸いです。

7・4 ページ

表題 検討結果～時期計画策定にあたっての基本方針～

検討結果 だけにすべき。

次期計画策定にあたっての基本方針

は、教育委員会が決めるべき事項であり、本委員会ではない。

※委員会初期に、このような類の発言「次期計画策定の方針といいますか・・・みたいな発言は金井課長からはあったような記憶はあるが、当委員会の議論内容は、多方面を考えた総合的な結論ではなく「子供ファースト」を最優先して導かれた結論であるはずで

す。であるならば、これがそのまま次期計画の基本方針とするのは、委員会の委員でありながら許せない。

8・17ページ（多分・・・ページ記載がないので）

おわりに の文章

今後の具体的方策については、教育委員会が検討を進めていくこととなるため、検討委員会では今後の議論や判断の拠り所となる道筋と展望・・・・・・・・

最初に構成の段階で申し上げたとおり、隠岐の島町の小中学校ともに2校、更には年度まで示したとおり早期実現 とするが、懸念される、申し送り事項 を記載した上で、次期計画に役立て頂きたい。 と締めたい。

検討委員会→ 当委員会へ訂正したい。

検討委員会が、どの検討委員会か明記したい（長いが、正式名称への訂正でも可）

隠岐の島町は「◎◎検討委員会が多く、誤解を避ける為」

児童の為の教育環境を最優先した当委員会の報告書なので、第一に考えて頂きたいのはあるが、判断の拠り所となる道筋という表現が、しっくりこない。

今後、当委員会の報告書を受け、教育委員会が、より具体的な次期10年計画策定に入ることと思われるが、当委員会でも議論に上がった、「子供ファースト」の理念は非常に大事であると同時に、具体的な年数も示したとおり早期に行う事も大事です。

然しながら、この計画による隠岐の島町全体に係る問題も出てくることも懸念される為、次期計画は慎重に決断頂きたい。

項目	ページ数	記載内容
報告書（原案）	1	
	2	
	3	
	4	適正な規模・適正な配置（小学校）
	5	適正な配置（中学校）
	6	これまでの経緯について・検討委員会の設置について
	7	あり方に関する検討委員会設置要綱
	8	あり方に関する検討委員会設置要綱
	9	あり方に関する検討委員会名簿
	10	検討委員会の開催状況
	11	検討委員会の開催状況
	12	検討委員会の開催状況
	13	検討委員会の開催状況
	14	基本的な考え方について
	15	児童・生徒数の推移と将来推計・学校統廃合のメリットとデメリットについて
	16	児童・生徒数の推移と将来推計・学校統廃合のメリットとデメリットについて
	17	
	18	会議録一覧
おわりに		
資料編		

項目	ページ数	記載内容	原案ページ数
報告書	1		1
	2		2
	3		3
	4	これまでの経緯について・検討委員会の設置について	6
	5	あり方に関する検討委員会設置要綱	7
	6	あり方に関する検討委員会設置要綱	8
	7	あり方に関する検討委員会名簿	9
	8	基本的な考え方について	14
	9	児童・生徒数の推移と将来推計・学校統廃合のメリットとデメリットについて	15
	10	児童・生徒数の推移と将来推計・学校統廃合のメリットとデメリットについて	16
	11	検討委員会の開催状況	10
	12	検討委員会の開催状況	11
	13	検討委員会の開催状況	12
	14	検討委員会の開催状況	13
	15	会議録一覧	18
	16	適正な規模・適正な配置（小学校）	4
	17	適正な配置（中学校）	5
	18		17
おわりに			